

記述における対策

一級とるぞ！.Net

1.	記述の目的：	2
2.	思考選択プロセス.....	2
	対策1：「採用した理由」選択候補を選ぶ判断基準要素に優先順位を設定	3
	対策2：「配慮したこと」配慮すべき項目の絞込み	4
	対策3：図面との不整合を防ぐ文章表現の修正	4
3.	相対立するテーマの解決.....	5
	対策4：実務的手法の学習	6
	対策5：提案型記述での肯定的表現	6
4.	記述の順序	6
	対策6：記述が先か図面が先か	7
5.	記述への準備	7
	対策7：問題文読み取り段階のマーキングとメモ	7
	対策8：エスキス見直し段階のキーワードメモ	7
	対策9：基礎的キーワードの平素におけるリストアップ	7
6.	補足説明	8
	対策10：全体見直しにおける引出し線による補足説明	8
	対策11：記述目標時間とトレーニング	8
7.	平成22年の記述傾向.....	8
	対策12：用途特有の設備的傾向拾い出し	9
	対策13：追加学習としての機械室面積検証	9
8.	自己の弱点について認識.....	10
	1) 分かり易い文章.....	10
	対策14：箇条書きと結論から成る単純な構成	11
	2) 文字の大きさと密度.....	11
	対策15：文字表現	11

8. 自己の弱点について認識

以上は記述の技術面から解説を行ったが、それ以前の問題として、受験生の中には、採点者にとって文章の意味が不明、文字が読めない等の理由により、減点を生じる場合が多い。

1) 分かり易い文章

分かり易い文字で、起承転結が明解、主語・述語の省略が無い事が基本となる。

受験生の職種・日常業務において、企画書、設計趣意書等を書く機会の無い人がほとんどであり、業務メールなどのですます口語調の文体と異なり、確信的、断定的な論文調の記述を限られた枠内に納め、言いたい事を100%述べ切る作業は不慣れであるものと思われ、特に自分が文章構成力に劣ると認識している人ほど論文調の特徴を真似る事に汲々とし、肝心の意味が曖昧になったり、論法が破綻しがちとなる。

平成21年の「環境負荷低減について」を例に説明すると

(4) 建築物の環境負荷低減（熱負荷の抑制、省エネルギー等）について、配慮したことを具体的に記述する。

正解

建築的手法

- ・屋上緑化の蒸散作用による冷却効果、外壁面に熱線反射塗料塗布により、躯体の蓄熱を低減。
- ・外部サッシ部はLow-Eガラスを使用した複層ガラスとし、夏季の熱線反射と断熱性の向上を図るとともに、換気設備は全熱交換器を採用する事により、冷暖房負荷を低減した。
- ・以上2項目により、空調消費電力の抑制を図った。
- ・日中、共用部分の電力を賄うため、屋上に太陽光発電パネルを設置し、購買電気使用量を抑制し、地域電力インフラの負荷低減を図った。

結論1 設備の手法 効果が微妙に異なるので、項目を分ける。

目的が異なるので、項目を分ける。
熱負荷抑制 電気使用量低減 省エネルギー

一般的導入動機は光熱費削減であるが、それでは環境負荷低減の観点にそぐわず、作り出した電気を消費する限り省エネルギーにも繋がらない。

結論2：電力使用が集中する夏場の日中、ピークカットができる部分に着目

よく見られる答案 同じ助動詞の繰り返し使用は「くどい印象」を与えるので避けるべきである。

・屋上を緑化し、外壁面に熱線反射塗料を塗布し、外部サッシ部はLow-Eガラスを使用し、断熱性を高め、換気設備は全熱交換器を採用するとともに、屋上に太陽光発電パネルを設置し、冷暖房負荷を低減し、消費電力の抑制を図った。

緑化と反射塗料は躯体蓄熱の抑制、Low-Eガラスは太陽光の熱線反射（遮熱）により冷房負荷を低減するが、普通ガラスと組合せ、複層ガラスにしないと高い断熱効果は期待できない。

購買電力の減少にはなるが、消費電力の抑制にはならない。論理の誤り

目的と効果が異なるものを複文とする事により、意味が曖昧

屋上緑化やLow-Eガラスがどうして冷房負荷低減になるか、理由の欠落